

## 12) ワスレナグサ=勿忘草

ワスレナグサはムラサキ科の多年草で原産地はヨーロッパである。高さは 30cm ほどになり、茎や葉には軟毛がある。春から夏にかけて、茎頂に先端が尾状に巻いた総状花序(植物の用語集図説参照)を出し、花卉が青色で中心が黄色の小花をつける。和名の由来はイギリス名である『forget-me-not』で、「私を忘れないで」という意味の日本語訳から生まれたものである。別称としてはワスレナグサとか、ヒメムラサキなどがある。学名は『*Myosotis scorpioides*』で、属名は「二十日ネズミ」と「耳」との合成語で、ワスレナグサの葉が柔らかくて短いところから名付けられたものである。種小辞は花序のかたちが蠍(サソリ)の尾のように巻いていることを意味している。花言葉はもちろん「私を忘れないでください」という意味である。

ワスレナグサは花色が珍しいために、ヨーロッパでは神秘的な花として、古くから人々に愛され、多くの物語を生んでいる。名前の由来を伝える伝説の中には次のようなものがある。その昔、ルドルフとベルタという恋人同志がライン川の辺を散歩中にこの花を見つけて、彼女のために花を摘もうとしたルドルフが、足をすべらせて川に転落。流れに呑み込まれて行く際、この花を陸に投げると「僕を忘れないで！」と叫んだのだという。こんな物語がいろいろとあったせいか、スイスやドイツなどのヨーロッパ諸国では、恋を成就させることができる魔法の草と信じられてきた。またイギリスのヘンリー4世は、14世紀の末にランカスター家を起こして王位についたとき、自分の紋章の一つとして勿忘草の花を用いたことでも知られている。以来この花を表現したS字形の首飾りは、ランカスター家のシンボルとなり、その後ランカスター、ヨーク両家が争ったバラ戦争まで、この紋章が用いられていた。

しかしワスレナグサのもっとも大きな特徴の一つは、世界の文学に与えた影響であろうか。ドイツロマン派の詩人ノヴァーリスは、小説『青い花』の中で勿忘草を、人間の憧れの象徴として扱っている。また詩人ウイヘルム・アレントも勿忘草の詩を美しく詠い上げており、この詩を上田敏は次のように訳している。

### わすれなぐさ

ながれのきしのひともとは、  
みそらのいろのみづあさぎ、  
なみ、ことごとく、くちづけけし  
はた、ことごとく、わすれゆく。

また昭和 35 年頃、日米安全保障条約調印問題にからんで日本中が騒然とした直後、『忘れな草をあなたに』という歌が日本中で流行った。木下竜太郎作詞、江口浩司

作曲の哀しい歌だった。日本人はなんだかんだ言っても、哀しい歌が結構好きな民族で、爆発的に流行った歌は意外と哀しい別れの歌が多い。しかしこれは日本のみではなくヨーロッパでも同じ傾向にあり、例えばビートルズの曲でも『イエスタデイ』や『ミッチェル』などはどれも別れの歌である。

### 忘れな草をあなたに

別かれても 別かれても 心の奥に  
いつまでも いつまでも  
憶えておいて ほしいから  
幸せ祈る 言葉にかえて  
忘れな草を  
あなたにあなたに

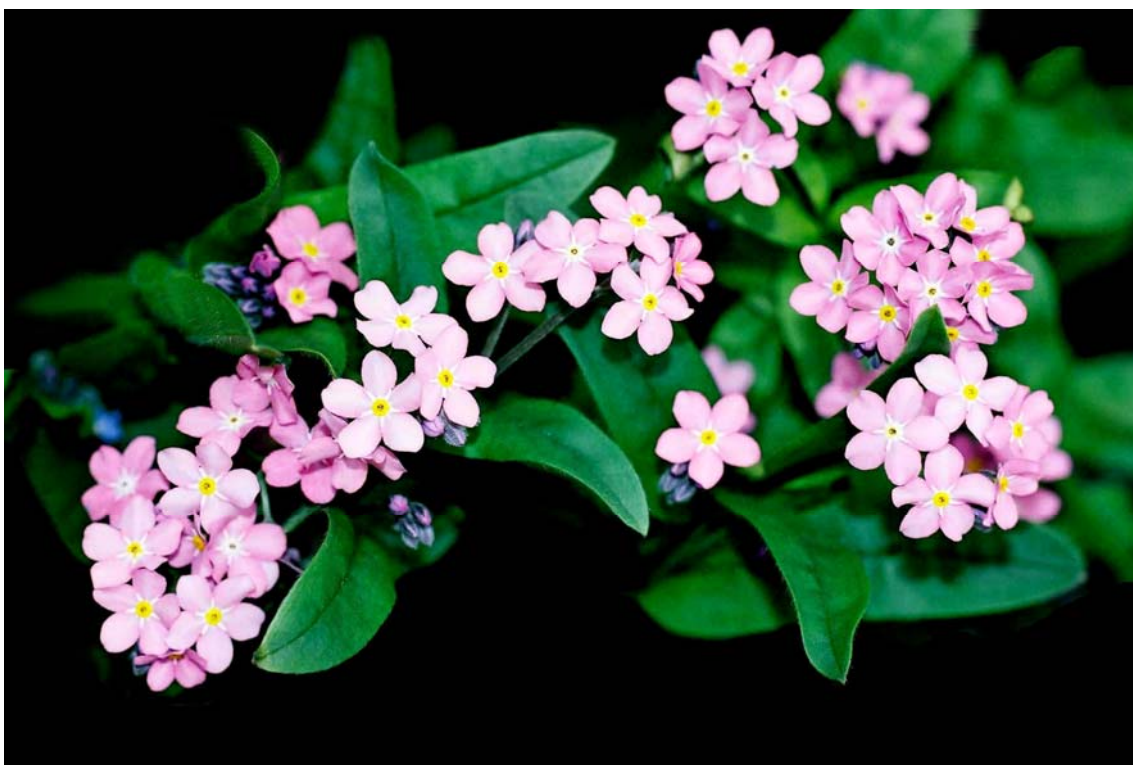
いつの世も いつの世も 別かれる人と  
逢う人の 逢う人の  
運命(サダメ)は常にあるものを  
ただ泣きぬれて 浜辺に摘んだ  
忘れな草を  
あなたにあなたに

よろこびの よろこびの 涙にくれて  
抱き合う 抱き合う  
その日がいつかは来るように  
二人の愛の 思い出そえて  
忘れな草を  
あなたにあなたに

ワスレナグサは小川の岸边など、湿り気の多い場所によく育つ。ウイルヘルム・アレントの「流れの岸のひとと」という一句は、この花の特徴をよく捉えている。庭にも植えられるが、どちらかというところ切り花として栽培されることが多い。丈夫な花で半野性化しているものも多く見られ、種子でもまた株分けでも簡単に殖やすことができる。美しい花を咲かせるこつは田圃の土のように肥料分を多く含み、粒子の細かい土で育てることで、水を切らさないようにすれば誰でもうまくゆく。花屋さんでは苗は売られてないが、種子なら簡単に手に入れることができる。



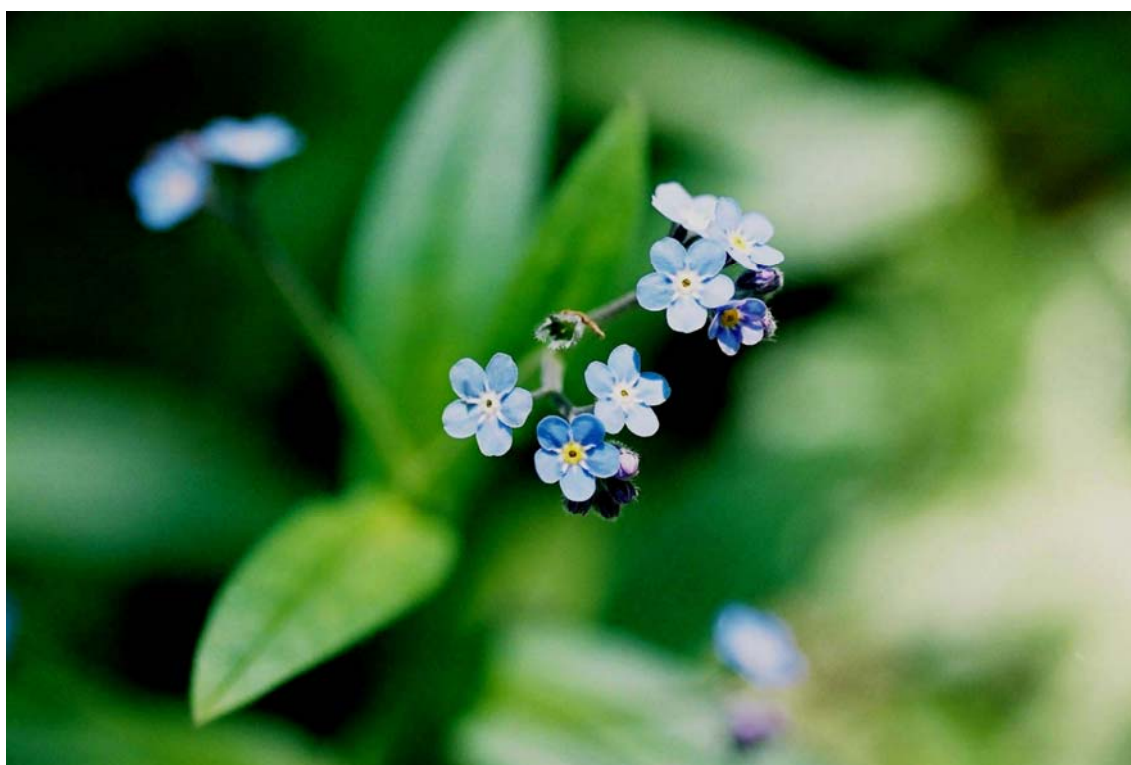
ワスレナグサは湿り気が多い川沿いや湖沼の周辺などに育つ。“ながれのきしのひともとは”と詠ったのは、まさにこの花の特性を良く捉えたものといえよう(栃木県日光市日光植物園)。



桃色花のワスレナグサ(栃木県日光市東京大学附属植物園日光分園＝日光植物園)。



日光植物園には小さな湿原があり、そこを占拠するかのようにはワスレナグサが咲いていた。派手やかな花ではないが、ロマンに満ちた花である(栃木県日光市東京大学附属植物園日光分園)。



ミヤマワスレナグサ？(長野県松本市上高地)

[目次に戻る](#)